

湖西大学への協定留学（交換留学）月例報告書（3月分）

文化政策学科 3年

【近況】

3月3日から授業も始まり、本格的に留学生活が始まった感じがします。

ある程度、韓国での生活や寮での生活に慣れ、1日のルーティンも出来てきました。

3月に入ってすぐ、湖西大学に私を含め4人いると聞いていた日本人の交換留学生に会うことが出来ました。色々な人に助けられながら到着してからの数日間を過ごせていましたが、やっぱり日本語で話せる、感覚が似ているというのは心強く、安心します。歳や出身、韓国語の能力などはみんなバラバラですが、全員同じ学科所属なので、専攻の授業や普段の生活で助け合えたらいいなと思っています。

また、留学中にしたい100のことのウィッシュリストを作ることをおすすめされました。韓国語の勉強に関する目標ややりたいこと、行きたい場所など色々言葉にして書いてみるのは面白かったです。今は60個くらいで100個までリストができていませんが、叶えながら増やしていきたいと思います。

【授業について】

履修する授業は、kakao talkを通じて、申請しました。

3月1日が祝日だった関係で、長期休みに続けて3連休ができたかたちになります。そのため、専攻の授業の科目名だけ送っていただき、その中から選びました。

留学生対象授業から、中級韓国語の書く・読む・聞く・話す、韓国文化探訪。専攻科目から、プレゼンテーションと話し方、公演企画、写真家論の8つの授業を履修することにしました。取得可能な最大単位数が18単位で、私は8つの授業で17単位です。少し大変かもしれないと心配されましたが、今のところどうにか頑張れそうです。

留学生対象の授業では、他の国から来た留学生と一緒に授業を受けるのですが、ほとんどがtopikを持っていて、驚きました。topikが無いからと言って、何か不便なことがあると言われるとそんなことはありませんが、ただ驚きました。

専攻の授業は、1・2年生から受けられる授業の中から選びました。3年生から受けられる授業からも選ぶことは出来たのですが、専門的な用語や話を韓国語で理解できるか、チームプレイで対等に話が出来るのが不安だったため、専門入門っぽい名前の授業から興味のあるものを選びました。文化コンテンツ企画学科らしい科目ばかりで、とてもワクワクしています。今は、座学が多く、前提知識を頭に入れていた段階ですが、これからチームプレイも始まるそうなので、教科書以外の韓国語をもっと頑張らなければいけないなと思っています。

また、ある授業では「日本人の交換留学生お手伝い係」を韓国人の学生2人が任命されていました。毎回同じ席に座って、何か必要な時は手伝うという立ち位置だそうです。初回

のオリエンテーションで近くに座っていただけだったので、少し申し訳ないなと思っていたのですが、初回の授業後、その内の1人が教授に「自分は日本語が出来ないけれど大丈夫か」と尋ねている様子を見て、すごく救いになりました。任命された2人にとっては負担でしかないはずなのに、わざわざ授業後に教授へ尋ねる真剣さや優しさが異国に身を置く自分にとってはとても嬉しく感じました。また、話しかけてくれる人がいたり、チームプレイでたくさん助けてくれる人がいたり、優しさに触れている一ヶ月だと感じます。

【サークルについて】

韓国の大学はサークル活動が活発だと聞いたことがありました。実際にサークル紹介でいくつかのバンドチームやダンスチーム、ラップチームがステージをしていましたがレベルが高く、観ていてとても楽しかったです。

私と日本人留学生の1人がバレーボール経験者であったこともあり、2人で一緒にバレーボールサークルに参加することにしました。サークルのInstagramにdmを送り、交換留学生が参加できるのかを聞いて参加しました。韓国人の学生から語学堂に通っている他の国の学生まで、サークルでも多くの人たちと交流ができています。週に2回の活動ですが、活動内容は中学や高校の部活動さながら、ちゃんと練習をすることに驚きました。サークルというと、試合形式で楽しくというイメージがやはり強かったので、初めはギャップがありました。好きなスポーツを通じてコミュニケーションがとれるこの機会を今後活かしたいと感じます。

【交流・活動について】

バディ活動やEMCという活動が始まりました。参加には申請が必要ですが、授業外で韓国人の学生と交流する機会が確保されているということがとてもありがたいと感じています。人見知りが多いので、今は受け身になりがちですが、自分から話題を提供できるように、韓国語はもちろんのこと日本のことについてもアンテナを張らなければいけないなと思いました。

【感じたこと】

文化や感覚といった違いを身をもって感じています。不便に感じることやもどかしい思いをすることがないとは言えませんが、私が不満を感じたときは相手も同じ気持ちだろうと割り切るようにしています。

元タルームメイトだったロシア圏の子は、同じくロシア圏の留学生が多い棟へ引っ越していきました。少し寂しかったですが、覚え立ての韓国語で「友達だよ」と言ってくれたのがすごく嬉しかったです。

まだ戸惑うことも多いですが、少しずつ慣れていきながら自分の経験として、そして自分の視野を広げられる期間にできたらいいなと思います。